

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	痛みの集学的治療コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	がん医療に携わる医師、看護師、薬剤師、その他の職種（公認心理師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等）						
修業年限（期間）	ベーシック（5日間） アドバンス（1か月以上2か月まで）						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん患者が抱える全人的苦痛を理解した上で、疼痛治療についての専門的な知識・スキルを身に受け、患者・家族が求める支援を行うことができる医療従事者。</li> <li>・他職種と円滑なコミュニケーションが図れ、チーム医療を実践できる医療従事者。</li> </ul>						
修了要件・履修方法	本教育プログラムを全て受講し、レポートを提出すること						
履修科目等	<p>【ベーシック】「緩和医療学概論」「がん疼痛」「緩和医療に必要な対人およびチーム医療での実践能力」の講義、緩和ケアセンターや痛み診療センターの診療への陪席、専門チームとのディスカッション</p> <p>【アドバンス（医師のみ）】①緩和ケアチームに参加し、症例を担当し、アプローチの実際を経験する。②緩和ケアセンターカンファレンス（初診・終診・クラスターカンファレンス等）にてプレゼンテーションを行い、包括的アセスメントを学ぶ。③緩和ケア病棟や在宅緩和ケアを経験し、地域連携について学ぶ。④症例検討などディスカッションを遠し、緩和ケアチームの各職種の役割を学び、連携を深める。</p>						
がんに関する専門資格との連携	医師は、就業の要件を満たせば、日本緩和医療学会の緩和医療認定医の申請要件（緩和ケア専従6か月以上）の実習期間とすることができる。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	緩和医療の普及・啓発は徐々に進んでいるものの、社会のニーズに応えられるだけの専門家の育成は進んでいない。当院は日本でも有数の緩和医療専門医、緩和医療薬物療法認定医を輩出機関である、本コースでは、多職種の専門家による包括的なクルズスの受講と実習により、より専門性を高めることができる。						
指導体制	慶應義塾大学病院および連携する緩和ケア病棟等の緩和医療専門医、緩和薬物療法認定薬剤師、専門・認定看護師等が直接指導にあたる。						
修了者の進路・キャリアパス	地域の中核的病院や在宅医療で、医療チームの一員として、がん患者や家族の苦痛の軽減やQOLの向上に視点をおいた緩和医療を提供できる医療従事者を育成する。						
受入開始時期	随時						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	8	8	8	8	8	8	48
受入目標人数設定の考え方・根拠	過去の志願者数及び受け入れ体制から、受入れ目標人数を8人／年と設定。						